

がれきの下で 強運 “発酵”

震災耐えた酒出荷へ 柏崎の醸造元 地域復興願ひ全力

新潟県中越沖地震で大きな被害を受けた柏崎市の日本酒醸造蔵元「原酒造」(原吉隆社長)が、全壊した土蔵で奇跡的に残った貯蔵タンクの酒を味わってもらおうと、出荷に向けて急ピッチで復旧作業を進めている。「強運のお酒で地域の復興を盛り上げたい」と期待を寄せている。

原酒造は1814(文化11)年創業。「越の誉」で有名な県内有数の老舗蔵元だが、地震で5棟が全壊した。5棟のうち2棟に酒のタンクを置いていたが、がれきの下敷きになってしまった。

しかし、倒壊した土蔵の下で、無事残っているタンクを発見。まだがれきを撤去しきれず、数百個のタンクのうち、どれだけが無事に残っているか不明だが、現在数十個が無事に見つかったという。

鉄筋造りの建物にある精米から瓶詰めまで製造ラインも無事。8月中旬にはタンクの酒を瓶詰めして出荷できるようにしたいという。

製造部長の平野保夫さん(64)は「早く製造、出荷作業を軌道に乗せ、心配してくれた農家や小売店、地元の方々を安心させたい」と意気込みを見せる。

9月には例年通り、新酒の仕込みを始める予定だという。



新潟県中越沖地震で全壊した原酒造の土蔵 = 7月15日、新潟県柏崎市で

(中日新聞 夕刊 2007年8月2日)